

## 審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和4年度 第2回甲州市未来会議
開催日時	令和4年6月27日(月) 午後7時から午後9時
開催場所	シェアオフィス甲州
議 題	1 短期提言に向けた意見の集約について 2 ワークショップの開催について
出席委員	雨宮智信委員、雨宮康順委員、内田亜由美委員、小鳥居正恵委員、近藤巴委員、宿澤和也委員、武井芳樹委員、松山典嗣委員、渡邊真輝子委員 (五十音順)
会議の公開又は非公開の区分	非公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	委員がより自由な発言をしやすいするため
傍聴人の数	—
審議概要	別紙のとおり
事務局に係る事項	出席者 政策秘書課3名(林リーダー、三森、宮川)
その他	

令和4年度 第2回 甲州市未来会議議事録 (開催日 令和4年6月27日)

<p>内容</p> <p>1 開会あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 短期提言に向けた意見の集約について</p> <p>(2) ワークショップの開催について</p>	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>●事務局(林) 開会あいさつ</p> <p>●宿澤座長 議題1番の短期提言に向けての意見の集約について、及び議題2番のワークショップの開催について事務局より説明を求める。</p> <p>●事務局(林) 短期提言に向けての意見集約及びワークショップの開催について説明。</p> <p>●宿澤座長 議題1について、まず短期提言書について、私自身の考えとしては、ワークショップに短期提言を出していくのは、時間的にも難しい部分があると感じている。前回の会議で松山委員が言っていた、市長と直接対話をする機会を設け、委員の生の声を聞いていただき、庁内での共有資料として短期提言を使っていただくのが良いと思う。また短期提言書の作成については、事務局が作成するのか、委員と協力して作成するのか、外部にお願いするのか、そのあたりも検討していきたいと考えているが予算的なもの含め外部対応が可能かお聞きしたい。</p> <p>議題2のワークショップについて、インターンシップに来る学生とやること自体はとても良いと思うが、私自身も学生を3人受け入れる予定であり、自身の参加は難しいが是非委員の皆様には参加して欲しい。ワークショップの開催方法については、開催時期、どういう物語で、どういう狙いで、何をゴールに設定するのか、長期提言の前にはなると思うが、もう少し掘り下げて、皆一致した中でワークショップを開催出来ればと考えている。</p> <p>また資料データ共有の方法について、LINE 配信及び Google ドライブを活用して委員間で情報共有ができるようお願いしたい。なお Google ドライブ上の保存先についても分かりやすいよう LINE で補足説明を入れていただければようお願いしたい。</p> <p>●事務局(林) 提言書作成の外部委託について、まずどういった方や企業にお願いしていくのが良いのか、また未来会議のこれまでの経過、会議内容、委員の皆様のご思いなども共有していただかないと単純に外部に発注しても、思い描く提言書の作成にたどり着けない可能性もある。委員の皆様の中で協力していただきながら作成していただけるなら、それが一番ではないかと考えている。</p> <p>●雨宮(康) 委員 委員と事務局と連携していきながら、骨組み作業、肉付け</p>
--	---

作業を一緒にやっていると良いと考えている。

●雨宮（智）委員 事務局で会議内容や要旨をまとめて骨子案も示している。これはこれで良い形だと思うので、この形を軸に考えていければ良いと思う。

●宿澤座長 9月の中間提言のゴール地点として、市長に提言書を提出する際に、意見交換や補足説明が出来るのであれば自分たちで提言書を作成しても良いと思うが、そういったことが出来ないのであれば内容をブラッシュアップするために、また市民目線で分かりやすい提言書にするために、外部にお願いすることも必要かと考えた次第である。

短期提言の中から次年度予算に少しでも反映できるものを出したい想いでここまで会議を重ねてきているが、9月中には提言書を提出する必要があるという認識で良いか。

●事務局（林） 次年度予算に計上するには、10月の実施計画ヒアリング間に合わせる必要がある。

●宿澤座長 今後のスケジュール、またワークショップをどうするのかについて、順番に意見を聞いていくので発言をお願いしたい。

●松山委員 来年3月が任期満了だと考えると、一度市長と直接対話することが必要かと思う。これまで短期提言について具体的なものがいくつも挙がっている中で、その中からピックアップして、私たちが重要だと考えていることを伝え、実現してもらえないか話をしていく。結果を求めていくことで、次期委員に対しても、これだけ話し合っただけで、しっかり結果が生まれれば、未来会議委員をやる価値があるところを見せることが出来るので、まず結果を求めていくことが1本柱にある。また市長に話をもっていくにはしっかりシミュレーションをし、曖昧なまま終わらないよう回答期日も設ける必要があると思う。

ワークショップについては、そこまで急いで開催して、このまちについて意見を下さいと言っても、それほど意見は出ないと思う。ただ言って終わりというパターンが多いので、それであれば何か関係性を築けるような長期的なワークショップを別ラインで残しておいて、考えていくのが良い。

●宿澤座長 最終提言がよりよいものになっていくのであれば、途中で一度市長と意見交換をすることも必要だと私も思う。

●近藤委員 結果を残さないと次期の委員が集まらないと思う。せつかくの未

来会議なので、ぜひ継続して甲州市のことについて考えていく輪がこの未来会議を中心に広がっていくと良いと思う。この未来会議を知ってもらうことのきっかけも大事なので、提言書について視覚的な効果を入れていく。それをより多くの人に見てもらうために、市の広報誌に掲載することや広報に折り込みすることも効果的だと考えている。

また視覚的な効果のあるものはとても重要で、最近 LINE ニュースなどでも取り上げられていた。高校生とのワークショップが予定されているとの事なので、甲州市について堅苦しいワークショップになるよりも、こういったことについての情報収集の場として活用することも良いのではないかと思う。

●宿澤座長 ワークショップというと、アイスブレイクして、自分の意見を言いやすい雰囲気を作って、テーマの掘り下げを進めていくのがワークショップで繰り返し開催することも良い点だと思うが、今回の高校生とのワークショップについては単発になるので、テーマをこういったものにして開催するのも良いと思う。

●雨宮（康）委員 先ほど短期提言書作成について話が出たが、これまでの内容を再度理解することにも繋がり、学びにもなるので、外部にお願いするのではなく、委員の中から編集メンバーを集め、自分たちで作りに上げていくのが良いと思う。ただ費やす時間と労力が必要、また複数の人の目でやらないと偏りが出てしまうので、手分けして、役割分担を決めながら進めていけると良い。

市長に委員の声を直接届けることも良いと思うが、具体的にいつ届けていくのか、これからのスケジュールは非常にタイトになってきているように感じているので、3月の着地点を見据える中でタイムスケジュールを明確に整理しておく必要があると思う。事務局として市長と対面するタイミングについてアドバイスはあるか。

●事務局（林） これまで1年以上会議も開催しておりますので、中間報告的な形もしくは、今考えて練っていることを伝える形、さらに具体的な提言案にしてまとめて持っていく形のいずれでも良いと思う。目的がしっかり見えていればタイミングも見えてくるのかなと考えている。ただ議会对応等も加味すると、8月下旬以降は時間が取り難い部分も出てくると想定している。

●宿澤座長 これから1ヶ月で提言書を作成し、その後で編集委員会を開いて、ブラッシュアップしていく。1ヶ月後に仕上げ、それをもとに8月上旬に市長と直接対談していく形でも良いかと思う。

●内田委員

9月に短期提言をする前段階で、市長と意見を交わす場は必要だと考えている。8月に一度話をし、提言書のベースを固めて再度9月に話をする機会があると良い。

ワークショップについては、無理に事実をつくるために開催するのではなく、目的をもって、9月の短期提言を経た後に開催する形でも良いと思う。

●渡邊委員 まず感じたのが、次期委員募集の意味でも、未来会議の認知度を早急に広めていく必要がある。そのためには広報誌での情報発信、視覚的な訴求、インターンシップの動画配信、未来会議の写真掲載など、とにかく真剣にやっていることをもっと市民の方に知ってもらうことが早急に必要である。また市長からなぜ未来会議を開催したのかということについて、もっと声を上げて欲しい。

今回配布された提言書について、見やすく良いと思うが、なぜこういったことが必要なのか、大切なのか、そういった背景が見えてこない。本当に20年後が描けていない中で、想像力を使ってみんなで描いているのが未来会議だと思うので、学生とのワークショップでも、描いた未来があって現状はどうなっているのか、そんな形で声を拾っていけると皆で作っていける感じが出て良いと思う。

●雨宮(智)委員 市長への提言の仕方は実現可能な方向で考えなければいけない。

ワークショップは、今意見を聞いても広がりすぎてまとまらないと思う。またネガティブ要素の発言が増えてくるとそれを吸い上げると前向きな話になっていかない。ポジティブに前を向いていけば、まず私たちは私たちが一生懸命考えましたということを伝えた上で意見を聞いて、次期委員にその内容を引き継いでいく形でも良い。

開催する日を予め広く周知し、未来会議はこういった形で進め、こういった結果を残した、委員になればもっとしっかり意見を言えることを若い人にも知ってもらい、自分の時間を使ってしっかりみんなで対話を進めていく形をつくっていくためには、今無理にワークショップという形で進めなくて良いと思う。

また長期的目標は1つだと思っている。市民と市役所が協働的に政策を決めていくことができるようになること。これを私たちが最初にやらなければならないことで、短期提言はとにかく実現することだと思う。

各柱に1個絶対実現するものを通す。また通しやすいものを選んで進めていくことも大事だが、最終的には通し方が大事だと思う。

命令系統を考えると市長に大まかにかつシンプルにやりたいことを伝え、それを承諾してもらう。本来であれば今年度形にしたかったが、ちゃんとしたも

のを作るのであれば来年度に向けて作っても良いと思う。私たちが考えていることを真摯に受けてもらい、一緒に作ったものは、私達も納得しているし、担当課もしっかり動いてくれた結果として、みんなで責任を持ってやってみようという形を作らないと、今回私たちがやっている意味がないと思う。

これまでも時間を使ってやってきたのだから、納得したいのは、甲州市の職員も苦労されているはずだから、できないことはできないなりの理由がある。だからアイデアが欲しい。そこをみんなに聞きたい。ここは市民目線ではどうだろうって話を聞いてくれよみたいなときにワークショップは開けばいいと考えている。

市民にも真面目に考えてもらう機会を作っていくべきである。いろんな地域で話し合った結果が集まってきたときに、最良の手段を選べばそれは間違いじゃないと思う。やってみる価値はあると思う。

●宿澤座長 より政策として実現するためのご意見でしたが、松山委員からも同様の意見がありました。結果にこだわる手段としてやっていくのも良いと思う。

●小鳥居委員 提言書についてはとても見やすくまとまっているが、渡邊委員からもあったとおり、提言の背景や目的が記載されていると、もう少し説得感が増すのかなと思った。

●事務局（林） 提言書（案）の最初のページは空白になっている。ここに9名の委員の想いを色濃く書いていただくことを想定している。

●小鳥居委員 これまで会議等を重ねる中で9人それぞれ違った視点で、面白い考えを持っている印象。それぞれの想いをうまくここに載せて表現していくと良いと考えている。

また具体的な施策の内容を理解できれば、考えもまとめやすい。

●事務局（林） 具体的な施策を知る方法として、市では生涯学習課で出前講座という仕組みも設けている。例えば以前から話に出ているデマンドバスの講座もメニューとして準備されている。ただしあくまで一般市民向けのメニューなので、内容は利用方法等の説明に比重があるが、こういった出前講座等で担当課と幅広く意見交換することも手法としては考えられる。

●武井委員 これまでの話を聞く中で、市長も大事だが、結局は担当課にも伝えていかないと難しいと感じる。結局のところ一貫性がない感じがして、それぞれの主観で潰し合っ、うまく交わっていないように捉えられるので、市長

だけではなく、担当課も巻き込んでいかなければならないと思う。またこの提言のロジックがすごく重要で、近藤委員、渡邊委員も話された視覚効果がポイントになってくと思う。人は感情で動くので、どれだけ感情に訴えかけるかということがすごく大事だと考えると、動画などのメッセージ系で心を揺さぶることも一つの手だと考えている。

また未来会議が始まって以来これまでの経過はエビデンスであり、これからの動き、最後の3月の膨らみに繋がり、ナラティブになっていく。大変ではあるが前向きにかつ確実に1つ1つ事実を作っていく、どうやって相手に伝えるか、感動や心を揺さぶれるかだと思うので、担当課との出前講座とかの場で私たちの想いをぶつけていけると良いと思う。

●宿澤座長 一周意見をいただく中で、雨宮（康）委員から提言書の編集について委員で協力して作成しければという意見があった。また編集にあたっては今後のスケジュール感を共有する必要があるため、この2点について詰めていく。

●雨宮（康）委員 補足であるが、提言書については、事務局で骨子をつくっていただき、それに対して委員が内容に肉付け、イラストを挿入するという作業イメージで考えている。

●宿澤座長 スケジュールについて、7月中に提言書の骨子を固め、8月中に提言書内容のブラッシュアップ、9月上旬までに市長に提言書を提出する形で考えているがいかがか。

これまでの話をまとめると、次回7月11日の会議では、提言書の編集メンバーを決めていければと考えている。

●全体で編集メンバーを調整

- ・全体統括 雨宮（康）委員
- ・提言書導入部担当（はじめに） 渡邊委員
- ・イメージ図アイデア出し担当 内田委員、近藤委員、松山委員
- ・提言書（案） 事務局作成

●宿澤座長 それでは各担当動いていただき、次回7月11日で完成版でなくても、大まかな形や途中経過を報告していただきたいと考えている。タイトなスケジュールとなるが宜しくお願ひしたい。

3 閉会あいさつ

●事務局（林） 閉会あいさつ